

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	連携不足、ポンプ車の管理不足、自身の現場状況把握不足からの負傷事故。
3. 体験した事例の中心的要素	家屋廃材置場その他火災において、放水体系を整理、資機材搬入等に伴い、一旦放水停止の指令により、放口を閉めたところウォーターハンマー現象により負傷したもの。
4. 体験した事例の原因・理由	他隊との連携不足、ポンプ車の管理不足、火災現場での状況を把握（情報収集不足）してなかったこと。

【体験した事例の直接的原因について】

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	情報入力に問題があった。
------------------	--------------

【体験した事例について】

.....

1. 発生日時	平成 16 年 3 月 6 日 午後 3 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：家屋廃材置場
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	
7. 事例体験時の活動	火災、現場活動中期、 [その他：家屋廃材置場]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	放水活動、
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[25]歳、勤続年数[4]年、現場経験年数[4]年、階級[消防士]、同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [機関員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	2隊同時出動により、当事者Aが運用するポンプ車にあっては、適度な水利を検索するも、困難であることから、他隊の放水活動の援護に入る。	防御活動に支障しないよう車両を停車させる。
経過2	当事者A	放水の援護に入る。	
経過3	当事者A	他隊のポンプ車より中継放水を求められ、放水活動を開始する。	当事者Aの運用するポンプ車は中継及び放水の隊形入った。
経過4	当事者A	他隊と連携し、中継及び放水体形をとる。	他隊からの情報収集（放水体形）
経過5	当事者A	火勢鎮圧、残火処理に入る。	コンパネ、金属片、その他幾多の廃材が広範囲に密集
経過6	当事者A	幾多の廃材が広範囲に密集しており、完全鎮火に至らず。中継及び放水活動に従事する。	
経過7	当事者A	重機による残火処理を当直隊長より指示があり、重機が到着するまでの間、中継及び放水活動に従事する。	
経過8	当事者A	重機が到着し、放水停止の準備に入る。	
経過9	当事者A	放水停止の指令により、放口をしめる。	他隊に放水停止の伝達する。
経過10	当事者A	ウォーターハンマー現象により、中継口よりホースが離脱。	

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。その他：現場の活動状況（放水体形）が把握してなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	はい
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

し. その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○**注意力欠如、焦り等の対策について**

単独放水が出来ないと判断し、防御活動に支障がないように移動したものの、ポンプ車の管理不足。当事者のみしか動かせない等、適度な処置を怠ったこと。

○**装備・資機材の対策について**

資機材の管理徹底、知識の再確認。

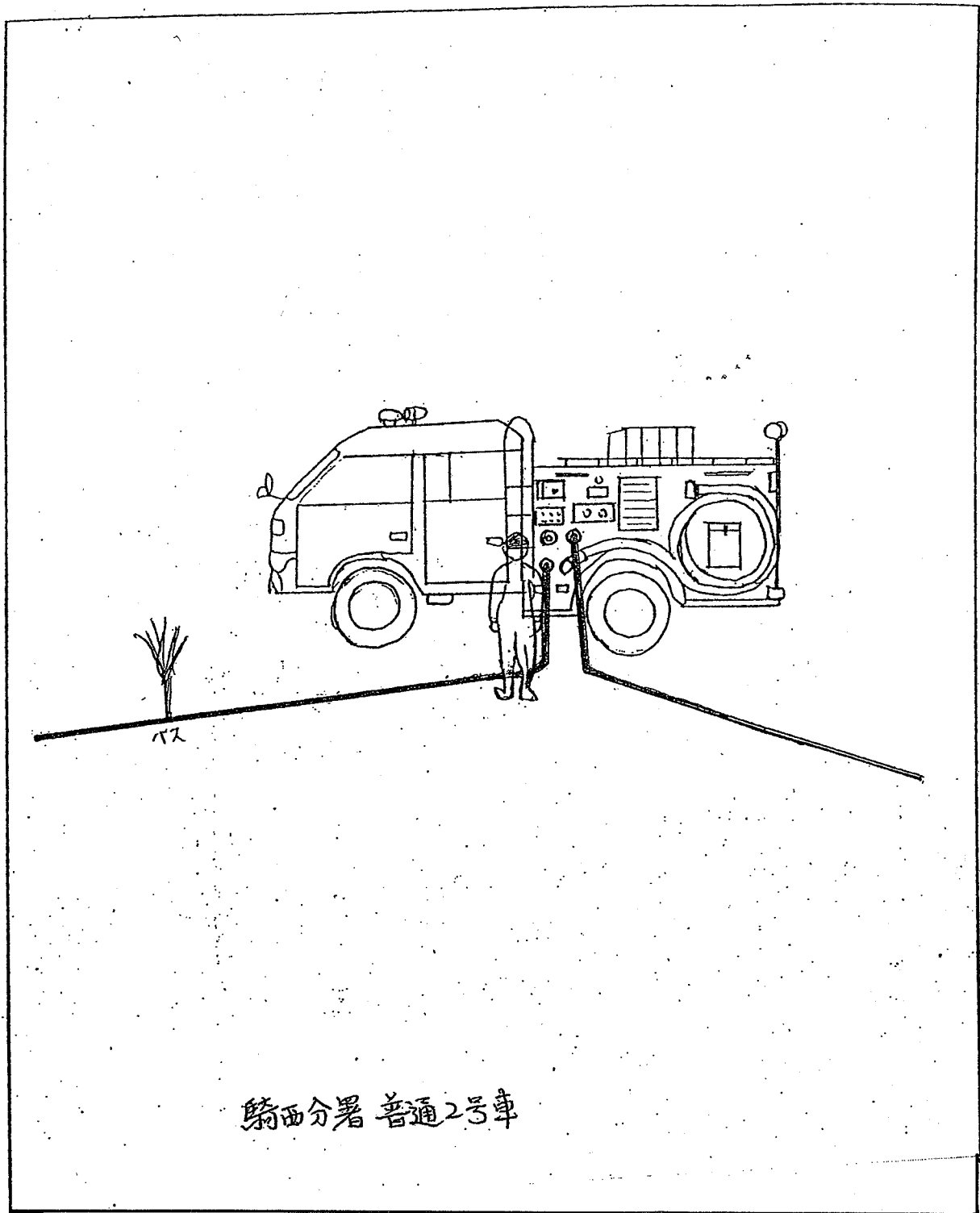
○**活動環境の対策について**

ポンプ車の管理徹底、情報の伝達の徹底。

○**指揮・情報伝達の対策について**

隊員同士の意思伝達の再確認。

災害発生状況図



○事故事例: 連携不足、ポンプ車の管理不足、自身の現場状況把握不足からの負傷事故
(同様の体験は、初めて体験した。)

(07J0001)

・発生日時 : 平成16年3月 午後3時頃

経過	現場の状況	隊員A	備考
		機関員／消防士 ・年齢 25 歳 ・勤続 4 年 ・現場 4 年 ・同様の活動: 過去に1, 2回程	
	家屋廃材置場その他火災。	2隊同時出動により、当事者Aが運用するポンプ車にあっては、適度な水利を検索するも、困難であることから、他隊の放水活動の援護に入る。	防御活動に支障しないよう車両を停車させる。
		放水の援護に入る。	
		他隊のポンプ車より中継放水を求められ、放水活動を開始する。	当事者Aの運用するポンプ車は中継及び放水の体形に入っていた。
		他隊と連携し、中継及び放水体形をとる。	他隊からの情報収集(放水体形)
		火勢鎮圧、残火処理に入る。	コンパネ、金属片、その他幾多の廃材が広範囲に密集。
		幾多の廃材が広範囲に密集しており、完全鎮火に至らず。中継及び放水活動に従事する。	
		重機による残火処理を当直隊長より指示があり、重機が到着するまでの間、中継及び放水活動に従事する。	
		重機が到着し、放水停止の準備に入る。	
		放水停止の指令により、放口をしめる。	他隊に放水停止の伝達をする。
		ウォーターハンマー現象により、中継口よりホースが離脱。	
		負傷。	

◎事故が起きたのはどうしてだと思うか？
○直接的な原因: 情報入力に問題があった。 ・他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。 ・ポンプ車の管理不足。 ・他隊との連携不足、ポンプ車の管理不足、火災現場での活動状況(放水体形)を把握していなかった(情報収集不足)。

◎事故が起きた背後要因
(心理・体調について) ・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。 ・活動に対する経験が不足していた。 (装備・資機材について) ・装備・資機材の使用方法が誤っていた。 ・装備・資機材の対処能力を超えていた。 (活動環境について) ・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。 (指揮・管理について) ・隊員の連携が不十分だった。